



香りが好評

クマザサの粉末を練り込んだり、まぶしたりしたパンやドーナツの試食コーナー。ササの香りが好評だった



エキスを搾ったクマザサのかすを混ぜた農業資材を手に取る樋口さん

山の身近な植物であるクマザサを使った食品や日用品を開発し、まちおこしなどにつなげよう、県内を中心とした約五十の団体・個人が二十八日、「長野県クマザサ利用推進会議」を設立した。茅野市北山の白樺湖近くの集会施設で開いた設立式典では、十人ほどが粉末をせっけんに練り込むなどさまざまな利用法を壇上で発表。粉末やエキスを使った菓子やパンも振る舞われた。

設立を呼び掛けた環境団体「未来軸」(茅野市)によると、強い繁殖力で地表を覆つクマザサはほかの植物の生育を抑えがち。

# クマザサで まちおこし

## 利用推進会議 茅野で設立総会



同会議は利用のためにクマザサ刈ることで、木材生産や多様な植物の生育につなげることも目指している。

富士見町の会社社長、樋口誠さん(71)は「製薬会社がエキスを搾った後のクマザサのかすを土に混ぜれば、防腐効果で病虫害予防に生かせるのではないか」と構想を発表。「原料がササだから、環境にもやさしい」と話した。未来軸会員で寝具店を経営する向山平和さん(56)は、クマザサの葉を中に詰めた枕を持参。「良いにおいがするので、気持ち良く眠れる」と紹介した。

パン作りに取り組む諏訪地方の農家女性らの「グリーンハーベスト加工部」は、休憩時間にクマザサの粉末を生地に練り込んだパンの試食コーナーを開設。粉末をまぶしたドーナツを食べた原村葉草研究会会長の平出サトコさん(67)は「原村」は「ササの葉の良い香りと、生地の塩味が合っています」。

このほか、クマザサで染めた布製品など、出席できなかつた会員の試作品も展示された。

式典前の設立総会で推進会議会長に選ばれた長田好三郎さん(75)は「良い商品をたくさん世に送り出せるよう互に研究していく場にしたい」と話していた。

クマザサを染料にして染めた糸や靴下などの布製品も並んだ